

令和 2 年 5 月 8 日現在

機関番号：32644

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02942

研究課題名(和文)日本人学習者におけるレベル別韓国語表記指導法の開発

研究課題名(英文) Development of a Level-Based Korean Orthography Instruction Method for Japanese Students Learning Korean

研究代表者

キム ミンス(Kim, Minoos)

東海大学・国際教育センター・講師

研究者番号：20734833

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本人韓国語学習者における分かち書きの使用実態を考察し、その原因と指導方法について検討した。本研究の研究成果としては、(1)日本人韓国語学習者における分かち書きの誤用分析、分かち書きの指導方法、オンライン辞書ツール使用が日本人韓国語学習者の作文に及ぼす影響、日本人韓国語学習者および韓国語教員における分かち書きの意識調査に関する論文発表、(2)「ハングル正書法(Hangeul Orthography)」に関する国際シンポジウム開催、(3)日本人韓国語学習者における分かち書きの使用実態とその誤用の原因、分かち書きの指導方法に関する学会発表などが挙げられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

韓国語の文章を書く上で基本的な表記法である分かち書きは、韓国語の作文能力を評価する基準として重要な役割を持っているにも関わらず、日本の韓国語教育現場では分かち書きの誤りについてはほとんど注目されてこなかった。本研究は日本の韓国語教育における表記教育の現状と問題点を明らかにし、今後の韓国語表記教育の方向性を示唆するもので、今後の日本における韓国語の表記教育へ大きく貢献できるものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：This research project investigates the use of spaces to separate Korean words, in particular how Japanese students learning Korean use spaces, the errors they make, and methods of instruction for proper use of spaces. The results of this research project include the following: (1) papers analyzing errors made by Japanese students learning Korean, considering the use of spaces between words, methods of instruction for proper use of spaces, the impact of online dictionary tools on the writing of Japanese students learning Korean, as well as the survey examining the attitudes of Japanese learners and Korean teachers toward the use of spaces, were published; (2) an international symposium on Hangeul orthography was hosted; and (3) a conference presentation on the use of spaces to separate Korean words was given, in particular how Japanese students learning Korean actually separate the words, causes of their errors, and methods of proper instruction.

研究分野：韓国語教育

キーワード：分かち書き ハングル正書法 表記 日本人韓国語学習者

1. 研究開始当初の背景

韓国語の表記は「ハングル正書法」に従い、文章の各単語は分かち書きを原則としている。しかし、日本語は漢字仮名交じり文で文字を表記するため、韓国語の分かち書きに慣れていない日本人韓国語学習者は、「 / (私は学生です)」のように表記すべきところを、「 (私) / (は) / (学生) / (です)」のように単語ごとにすべて空けて書いたり、「 (私は学生です)」のようにすべての単語を繋げて書いたりする場合がある。

ところが、実際の教育現場では、分かち書きの誤りは文を書いた時にしか現れず、文法上の問題が生じないため、分かち書きの誤りについてはほとんど注目されてこなかった。日本人韓国語学習者を対象とした誤用研究もほとんどが発音、文法、語彙を取り上げており、分かち書きの誤用についてはあまり扱っていない。日本国内で出版された韓国語のテキストにおいても分かち書きについてはほとんど扱っておらず、日本の大学では分かち書きに関する教育も行なわれていない(桂正淑, 2005)。これは、分かち書きの規則が複雑だけでなく許容や例外が多いため、教育現場では意思疎通に支障のない学習者の分かち書きの間違ひについては見過ごしているからであると考えられる。また、分かち書きに関する明確な指導法も確立されていないため、指導方法は各教員に任せられているのが現状である。

しかし、韓国語教育の立場からみて、分かち書きは韓国語の文章を書く上で基本的な表記法である。たとえば、「 가(父が) / (部屋に) / 가 (入る)」と「 (父) / 가 (カバンに) / 가 (入る)」のように、分かち書きを間違えると、意味が変わる場合もあり、分かち書きは解釈上の誤解や多義的な解釈を防ぎ、円滑なコミュニケーションを成立させる働きをするものである。また、分かち書きの単位である文節は、区切り読みの単位でもあり、区切り読みにおける呼吸調節(シン・ミナ, 2001)に役立つため、韓国語の文を読むリズム感を捉える上でも重要な手がかりとなる。さらに、分かち書きは文法項目と関連があるため、文法教育にも役立つものである。イ・ウニョン(2016)では外国人学習者が韓国語の作文において一番難しいのは分かち書きであると答えた人が71%であり、金珉秀(2016)の調査では81.8%の日本人韓国語初級学習者が分かち書きに関する教育が必要だと答えている。このように教育する側と韓国語学習者側の分かち書き教育に関する認識には大きなずれがあり、日本人韓国語学習者は分かち書きに関する教育・指導の必要性を強く感じていると言える。

そこで、本研究では、日本人韓国語学習者における韓国語表記の使用実態を考察し、その誤用パターンおよび誤用の原因を明らかにし、その効果的な指導法を開発することを目指す。

2. 研究の目的

本研究は日本人韓国語学習者の表記の使用実態を考察し、日本人学習者におけるレベル別韓国語の表記指導法を開発することを目的とする。そこで本研究では、まず、先行研究および最新の研究動向を検討するとともに、日本人韓国語学習者と韓国語教員を対象とし、韓国語表記に関する指導法と学習法に関する意識調査を行う。次に、日本人韓国語学習者の作文を収集し、データの処理・分析を行い、学習レベル別の分かち書き誤用の原因を明らかにする。また、最終目標として日本人韓国語学習者の使用実態に基づく韓国語表記の指導モデルを構築することを目指す。

3. 研究の方法

(1) 日本の韓国語教育現場における分かち書きに関する授業の実態と課題を精査し、その問題点・改善点などを調べるために、日本人韓国語学習者と韓国語教員に意識調査を行う。

(2) 日本人韓国語学習者の作文を収集し、データを文字化した上で、その誤用パターンを分析し類型化する。また、レベル別分かち書きの誤用の原因についても明らかにする。

(3) 日本人韓国語学習者の作文における分かち書きの使用実態を分析し、分かち書き指導モデルを考案する。

4. 研究成果

(1) 日本人学習者における分かち書きの誤用分析

日本人韓国語初級・中級学習者における分かち書きの使用実態 - 助詞の前後を中心に -

東海大学に在学する韓国語初級学習者(103名)と韓国語中級学習者(15名)の計118名を対象とし、助詞の前後における分かち書き正解率を調べ、分かち書きの使用実態を比較考察した。その結果、中級クラスは初級クラスより正解率が有意に高く、初級クラスでは男子学生より女子学生の正解率が有意に高いことが明らかになった。ところが、中級クラスでは分かち書きの指導や添削が行われているにも関わらず、助詞の前の分かち書きにおいては、初級クラスより中級クラスにおいて正解率が下がる場合もあった。したがって、分かち書きにおける指導方法の改善の余地や分かち書きにおける教育効果を検証する必要性があることが示された。

日本人韓国語学習者の作文における分かち書きの誤用に関する一考察

東海大学の韓国語中級学習者20名の作文120編を研究対象とし、分かち書きの誤用パターンを「離すべきところを繋げて書く誤用」と「繋げるべきところを離して書く誤用」に分類し、その様相を考察した。また、分かち書きの原則と許容規定のあり方については、分かち書き規定が頻繁に変わるの合理的ではないため、分かち書き規定が変わったとしても元々の分かち書きを原則とし、変更後の規定を許容するのが望ましいことを提案した。

(2) 日本人学習者における分かち書きの使用実態と指導方法

東海大学の日本人初級学習者22名と日本人中級学習者29名の作文における分かち書きの使用実態について「離すべきところを繋げて書く誤用」と「繋げるべきところを離して書く誤用」に分類し、その特徴および誤用原因について考察した。初級学習者は「分かち書き」を授業時に習っていない場合が多く、初級段階から分かち書きに関する教育を望んでいることが分かった。一方、作文指導を受けている中級学習者の場合は分かち書きに関する認識や関心を持っており、作文の際に分かち書きに注意を払っていることが分かった。しかし、中級学習者の場合、日本語の影響による誤用だけでなく、離して書くべき1音節の単語を前後の語と繋げて書いたり、分かち書きを発話の単位として捉えて書いたりする誤用がよく表れた。分かち書きの誤用の原因としては分かち書きに関する認識不足、母国語(日本語)の干渉、通信・マスメディアの影響、教材・辞書などにおける間違っただけの分かち書きの表記、分かち書き教育の不在などが挙げられる。また、分かち書きに関する教育方法としては、原稿用紙の使用、学生自身と教員による作文評価、色分けを使用した添削フィードバックなどを提案した。

(3) オンライン辞書ツール使用が日本人韓国語学習者の作文に及ぼす影響

日本人学習者の作文における分かち書きの誤用の原因の中には、日本語や既習学習の影響であるとは考えにくいものがあり、その誤用の原因についてはこれまでに明らかにすることができなかった。そこで、日本人学習者(20名)の韓国語作文に現れる分かち書きの誤用のパターンとオンライン辞書ツール(国立国語院の標準国語大辞典、Naver 辞書、Papago、Google 翻訳、LINE 韓国語通訳)の検索結果を比較し、オンライン辞書における分かち書き誤用が日本人学習者の分かち書き誤用にどのような影響を及ぼしているかについて考察した。その結果、日本人学習者の分かち書きの誤用パターンがオンライン辞書ツールの検索結果と類似していることが分かった。

特に、繋げるべきところを離して書く誤用はオンライン辞書ツールの検索結果とほぼ一致していることから、オンライン辞書ツールの使用(環境的側面)が日本人韓国語学習者の分かち書きの誤用に影響を及ぼしている可能性が示唆された。

(4) 分かち書きに関する意識調査

日本人韓国語学習者の作文における分かち書き認識に関する一考察

韓国政府が公認する韓国語教育機関である駐日韓国大使館韓国文化院の世宗学堂の日本人韓国語学習者 213 名を対象とし、アンケート調査を行った結果、以下のことが明らかになった。

分かち書きに対する学習者の認知度は 81.2%であったが、分かち書きの基準を「単語」と正しく答えた学習者は全クラスを通じて 23%に過ぎず、全クラスの 63.8%が「読みやすさ」と間違えて認識していることが分かった。クラス別では世宗 5 の正解率(32%)が一番高く、世宗 6 の正解率(12%)が一番低い結果となった。分かち書きの学習場所については世宗学堂の授業で習ったと答えた学習者が全体の 72.6%を占めているが、世宗学堂では分かち書きの教育に関する統一的教育方針はないため、分かち書きの教育は各担当教員によって左右されていると考えられる。そして、全クラスの 82.2%の学習者が韓国語の文章を書くときに分かち書きについて注意を払っていると回答したが、全クラスの 82.6%の学習者は分かち書きを難しいと感じており、レベルが上がっても分かち書きを難しいと感じる日本人学習者の割合は依然として高いことが分かった。また、全クラスの 97%の学習者は授業時の分かち書きの教育の必要性を感じており、授業時の分かち書き指導を望んでいることが分かった。

分かち書きにおける韓国語教員の意識調査 - 世宗学堂の教員を中心に -

駐日韓国大使館韓国文化院の世宗学堂の韓国語教員 7 名を対象に分かち書きに関する意識調査を行い、以下の結果が得られた。

まず、第 1 次調査では、ほとんどの教員は分かち書き指導の必要性を感じており、初級段階で指導すべきだと回答した。世宗学堂の教員は分かち書き教育を行っているが、分かち書き規定について詳しく教えるというよりは、基本的な分かち書き知識を中心に文法事項と関連づけて指導していることが分かった。6 名の教員は分かち書きが意味伝達の面において意味を正確に伝えることに影響すると考えていたが、分かち書きをしなくてもコミュニケーションには大きな影響や誤解を与えないと思っている教員も 1 名いた。また、ほとんどの教員は原稿用紙を活用するのが有効であると回答した。

第 2 次調査では、「ハングル正書法」の分かち書き項目に関する意識調査を実施したが、ほとんどの教員は許容規定や例外規定がある場合の分かち書き指導が大変であると感じており、許容や例外が多いことは学習者だけでなく教員にも負担になると感じていることが分かった。以上のことから世宗学堂の韓国語教員は分かち書き規定について一貫性を求めていることが示唆された。

分かち書き規定に関する日本国内の韓国語教員の意識調査 - 大学教員を中心に -

日本国内の大学教員 73 名を対象に韓国語の分かち書き教育と「ハングル正書法」の分かち書き規定に関する意識調査を行い、以下の結果が得られた。

分かち書き教育を実施していると答えた教員は 76.7%、分かち書き教育の必要性については 90.4%、分かち書きが韓国語学習に及ぼす影響については 68.5%の教員が「当てはまる」と答えた。そして、韓国語母語話者教員・日本語母語話者教員ともに「助詞や語尾は前の語に繋げて書

く」などの基本的な規定を中心に教えており、細部の規定は学習者のレベルや必要に応じて個別に教えていることが分かった。「ハングル正書法」の分かち書き項目に関する意識調査では、分かち書きの大原則である第 2 項については、修正する必要があるという意見(41.1%)と修正する必要はないという意見(39.7%)に分かれた。また、分かち書き指導の難しさについて、韓国語母語話者教員の意見では、分かち書き規定に原則、許容、例外が多いため、教える側も教わる側も苦勞をするというのが最も多かった。一方、日本語母語話者教員は実際の言語生活と分かち書き規定との乖離を挙げる場合が多かった。共通した意見としては、教育課程および教材における分かち書き教育の不在、教材間の内容の不一致、学習評価基準の不在などがあげられた。

(5)「ハングル正書法」に関する国際シンポジウムの開催

2018 国際シンポジウム「韓国語教育の現状と課題 - 韓国語正書法をめぐる諸問題を中心に」
(2018 年 2 月 16 日開催、於：東海大学代々木キャンパス)

シンポジウムの第 1 部では、閔賢植氏(ソウル大学教授・前国立国語院院長)による基調講演、生越直樹氏(東京大学教授)、吉本一氏(東海大学教授)、伊藤英人氏(明治大学他講師)、研究代表者(東海大学講師)による講演が行われた。第 2 部では講演者 5 名によるパネルディスカッションが行われ、日本における韓国語教育の現状における課題と問題点について意見交換や討議を行った。

2019 国際シンポジウム「韓国語教育の現状と課題 - 韓国語正書法教育を中心に」(2019 年 8 月 23 日開催、共同主催：駐日韓国大使館韓国文化院、於：駐日韓国大使館韓国文化院)

シンポジウムの第 1 部では閔賢植氏(ソウル大学教授・前国立国語院院長)と李寬珪氏(高麗大学教授)による基調講演、長谷川由起子氏(九州産業大学教授)、内山政春氏(法政大学教授)、南潤珍氏(東京外国語大学准教授)による特別講演が行われた。第 2 部では特別講演者 3 名と討論者(吉本一(東海大学教授)、中島仁氏(東海大学准教授)、須賀井義教氏(近畿大学准教授))3 名によるパネルディスカッションが行われ、日本における韓国語正書法教育の現状と課題を踏まえた上で、韓国語表記教育の在り方について意見交換や討論を行った。

当初の計画では日本人学習者におけるレベル別韓国語の表記指導法を開発することを予定したが、研究を進めていくうちに、日本人学習者における分かち書きの誤用は韓国語表記教育の不在の問題がかかわっており、文法や発音などの他の学習の課程で起こる誤りとは異なった側面があることが明らかになった。このことから、実際の教育現場における韓国語表記教育の実態を把握し、韓国語表記教育の方向性を確認する必要性が浮き彫りになった。そこで、「ハングル正書法」に関する国際シンポジウムの開催および韓国語教員を対象とした意識調査を再実施することで今後の韓国語表記教育の方向性を示唆できた。研究期間内に韓国語の表記指導法を開発するまでには至らなかったが、韓国語表記教育における現状と問題点を検討できたことは大きな成果であり、今後韓国語の表記指導法の開発に繋げていくことが期待できる。これまでの成果を踏まえ、今後もさらに研究を継続して取り組んでいく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

| | |
|--|------------------------|
| 1. 著者名 金珉秀 | 4. 巻 9 |
| 2. 論文標題 日本人韓国語学習者の作文における分かち書き誤用とオンライン辞書ツールの検索結果との比較 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 韓国語教育研究 | 6. 最初と最後の頁 pp.63-81 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 金珉秀 | 4. 巻 39 |
| 2. 論文標題 日本人韓国語学習者における分かち書き認識に関する一考察 - 世宗学堂の学習者を中心に - | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 東海大学紀要（国際教育センター 英語教育部門・国際言語教育部門） | 6. 最初と最後の頁 pp.1-22 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------------|
| 1. 著者名 金珉秀 | 4. 巻 19 |
| 2. 論文標題 分かち書きにおける韓国語教員の意識調査 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 異文化交流 | 6. 最初と最後の頁 pp.116-135 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|------------------------|
| 1. 著者名 金珉秀 | 4. 巻 8 |
| 2. 論文標題 日本人韓国語学習者の作文における分かち書きの誤用に関する一考察 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 韓国語教育研究 | 6. 最初と最後の頁 pp.45-72 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|------------------------|
| 1. 著者名 金 珉秀 | 4. 巻 7 |
| 2. 論文標題 日本人韓国語初級・中級学習者における「分かち書き」の使用実態 - 助詞の前後を中心に - | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 韓国語教育研究 | 6. 最初と最後の頁 pp.47-67 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 金珉秀 |
| 2. 発表標題 日本人韓国語学習者の作文における分かち書きの誤用とその原因に関する一考察 |
| 3. 学会等名 第9回日本韓国語教育学会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 金 珉秀 |
| 2. 発表標題 日本人韓国語学習者の分かち書きの使用実態と指導方案 |
| 3. 学会等名 国際シンポジウム「韓国語教育の現状と課題- 韓国語正書法をめぐる諸問題を中心に」(国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

〔図書〕 計2件

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 関 賢植, 李 寛珪, 長谷川 由起子, 南 潤珍, 内山 政春, 金 珉秀 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 東海大学出版 | 5. 総ページ数 180 |
| 3. 書名 文部科学省・科学研究費助成事業・基盤研究(C)2019国際シンポジウム論文集 韓国語教育の現状と課題: 韓国語正書法教育を中心に | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 関 賢植, 金 珉秀, 伊藤 英人, 生越 直樹, 吉本 一, 趙 顯龍 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 東海大学出版 | 5. 総ページ数 188 |
| 3. 書名 文部科学省・科学研究費助成事業・基盤研究(C)国際シンポジウム論文集 韓国語教育の現状と課題 - 韓国語正書法をめぐる諸問題を中心に - | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|